

# 【総理研研究】山梨県の自然環境を活かした水稻高品質生産技術の開発(R3～R5)

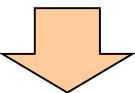
総合農業技術センター・衛生環境研究所

## 背景・目的

- ◎水稻は本県の基幹作物の一つ(県耕地面積の20%)であり、収量や品質が優れ、市場の評価も高い。
- ◎しかし、昨今、温暖化により品質が低下している。
- ◎近年は、水稻の高品質化に関するケイ酸供給量の減少が指摘されている。



河川や農業用水から  
の供給量低下？



生産者の施肥に  
による補給不足？



出穂期以降の高温で  
胴割粒が多発

- ・県内水稻产地の主要河川・農業用水や土壤によるケイ酸の天然供給量を地域別に把握
- ・天然供給量を考慮したケイ酸の施肥基準値を設定し、水稻の高品質生産技術を確立

## 研究内容

事業費: 10,826千円

1年目

- ①主要河川、農業用水の水質調査  
(衛環研)
- ②ケイ酸新規測定法による  
土壤種ごとの実態調査(総農セ)
- ④ケイ酸質肥料を用いた  
水稻高品質化技術の確立(総農セ)

1年目: 各種ケイ酸質肥料の違いが玄米品質に及ぼす影響の解明  
2年目: ケイ酸吸収に関する成分(マグネシウム等)の施用がケイ酸吸収に及ぼす影響の解明  
3年目: 天然供給量を考慮した施用量の検討  
※いずれの試験も生育期間中の光合成能や玄米外観品質との関係を調査

【経費: 5,696千円】

2年目

- ③ケイ酸などの天然  
供給量マップの作成  
(衛環研・総農セ)
- ⑤天然供給量を考慮  
した施肥基準値の  
設定(総農セ)

【経費: 2,552千円】

3年目

- 水源や土壤を地域  
別に調査
- ⑥新技術の产地実証  
(総農セ)

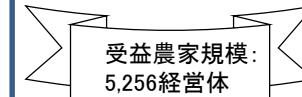
【経費: 2,578千円】

## 期待される効果

- 天然供給量を考慮したケイ酸の施肥基準値が設定されることで、**自然環境を活かした農業生産の実現**につながる。
- 本県の水稻生産にとって最適なケイ酸施用技術による土づくりを行うことにより、**高品質化を図ること**ができるとともに**温暖化に対応した稻作経営の一助**となる。
- 天然供給によるケイ酸を有効活用することで肥料にかかる費用対効果が高まる。



天に選ばれし、  
名水の地。  
山梨。



やまなしブランドを  
守りたい！